

1 体育・保健体育科における「一人一人が問いをもち追求する姿」

本学校園体育・保健体育科における問いとは、「やってみたい」という思いをもとに、どうする
とよりよくできそうか課題を解決する方法を見いだしていく中で生まれていくものと考えている。
その方法を実際に試していくことで、問いがさらに深まるとともに、発達段階に応じて動き方が「わ
かる」ことや技能の向上が図られる。このような、子どもたちの一人一人が問いをもち追求する姿
として次のような姿を目指している。

- 身体を動かしたいと思う姿（情緒）
- 身体を動かしている姿（技能・体力）
- 技能構造を追求し、考えている姿（思考・知識）
- 仲間とともに追求しようとする姿（協力）
- 自分や仲間の姿を観察し、思ったことを言葉や身体をつかって伝える姿（思考・判断・表現）

体育における学習場面には、運動に向かおうとする場面、身体を動かす場面、よりよく運動して
いくための課題解決をしていく場面がある。その学びの中で子どもたちが、まず「やってみたい」
という思いをもつことが必要となる。その思いは、子どもたちの追求欲求を刺激する教材との出会
いや、仲間との豊かな学び合いによって引き出される。課題は何なのか、どうしたらうまくできそ
うか、動きを見合い、話し合う中で学習内容の核心である課題解決に向かっての仲間との学び合い
が促される。このような学びを通して、技能を高める「わかる」が生み出されていく。下記は、そ
の学習場面における表現運動の授業中のふりかえりである。

ぼくらは、「草をかきわける」という動きをこだわってやってみました。すごく険しくて、おいしげっている
ジャングルを表すには、どうすればいいか考えてみて、ぼくらの動きは、足を力強くドン!とふんで、両手で
中腰になってかきわけると迫力が出るので、細かいところまでこだわりたいです。 (児童A)

児童Aが「こだわり」と表しているように、自分のやりたいことや解決したい課題をはっきりと
もつことで、学び合いがチームの中で自然に生まれ、より高めていこうとする考えや動きが次々
と出ている。このような学び合いの積み重ねを通して、一人一人が「できる」につながる「わかる」
を獲得していくことができる。その先には、自然と動き出したり、できるようになるために思考を
巡らせたりする子どもたちの姿が表れ、さらなる「できる」を得ていくことであろう。そして、一
人一人が自ら問いをもち、追求していくことができると考える。

2 「一人一人が問いをもち追求する姿」を求めて

- (1) 付けたい力を明確にした学びをつなげる系統的な学習
- (2) 自身や集団の課題に対して問いをもち高めていく学び合い
- (3) 「やってみたい」「解決したい」という思いが連続する教師のはたらきかけ

(1) 付けたい力を明確にした学びをつなげる系統的な学習

体育学習では、ねらいをはっきりともち、系統的に取り組んでいくことがとても重要である。学
習の中で、過去の運動経験を生かすことで、子どもたちは学びをつなげ、力をつけていくことが
できる。

ゴール型の運動を例に挙げると、養いたい力の一つに「空間認識力」がある。空間認識力の中
でも、空間を見付け、動くところに視点を当てた単元であるトレジャーゲームを小学校3年で行った。

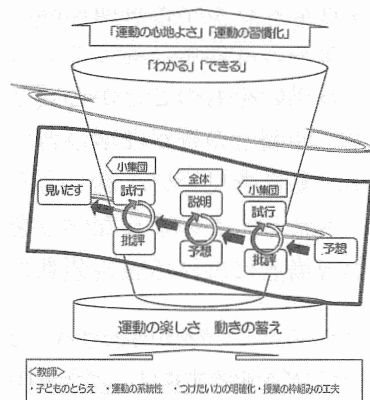
本単元では、友だちの動きを観察することを大事にして、特に体育館ギャラリーから友だちの動きやコート全体の空いている空間を見る学習に取り組んだ。友だちの動きやコート全体を観察して気付いたことを伝え合う中で、空いている空間を見つけて得点につなげる動きについて思考していくことができた。その学習を通して次のようなふりかえりが出された。

- Bさんが、すき間があるところを何回もねらって行って、得点を取ってすごかった。
- CさんはDさんにパスをしていたけど、どちらも相手のいないところに動いているからできたと思った。
- 今日は、自分が意識したのはすき間です。相手のいないところを意識して動きました。そうしたら、相手のいないところに行くとお宝も取れたし、得点も取れました。

3年生の発達段階や経験をふまえて、体育館ギャラリーを使用し、俯瞰して全体を見たことで、子どもたちは空間を見つけた動きを、自分やチームの動きに取り入れようとしていた。付けたい力を明確にし、そのためにどのようなはたらきかけや学び合いをするのか工夫することで、子どもたちの学びは、より高まりを見せていっている。この学びが基盤となって高学年・中学校でのゴール型の学習につながっていく。このような学習を積み重ねながら、自分に蓄えられていった経験を、さらに積み重ねていき、必要に応じて以前の単元や本単元で蓄えたものを引き出し、いかすことで、一人一人のもつ問いが、より洗練されたものとなっていく。

(2) 自身や集団の課題に対して問いをもち高めていく学び合い

体育・保健体育科では、子どもたちの問いをもち追求する姿は、右図のように高まっていくと考える。本校園の体育の授業は、予想（前時のふりかえりをもとに）→1回目の試行・批評（小集団）→説明・予想（試行・批評をもとに学級全体で）→2回目の試行・批評（説明・予想をもとに）→見いだす（次の課題へ）という流れで行うことが多い。このような学びの中で、特に小集団（ペアやグループ）での試行と批評が大切になる。それは、小集団において、次のような学び合う場面が考えられるからである。



- 出会った運動において、自分の考えを確かめるために試しに動いて、調整しながらよりよいものにしていく。（試行）
- 動きを見合うことで、互いの考えについて評価（アドバイス）し合い、見えにくかった自分やチームの動きを視覚化していくことで、よりよいものを求めている。（批評）

自分では見ることの難しい自分（チーム）自身の動きを視覚化していくことで、自分ができていること、できていないこと、また、そこから生まれる課題をもとに、思考力・判断力・表現力を育成し、技能を向上させていくことが大切になる。このように学び合うことで、自分自身や集団の課題から問いが生まれ、高まりを見せていく。

(3) 「やってみたい」「解決したい」という思いが連続する教師のはたらきかけ

個に応じた教師のはたらきかけがグループや全体での学び合いを深め、技能の習得においても重要となってくる。そこで、子どもが伝えたいことをより明確にし、全体が共有できるように考えを掘り下げることが必要である。また、これまでの子どもの思いや考え、知識と比較することで思考をゆさぶったり、新しい考えを実感できたりするようなはたらきかけも効果がある。そして、子どもたちが主体的に活動をすることができるよう、付けたい力をもとにふりかえりを工夫し、子どもの思いや考えを全体に表現し、共有できる場を設定していくことで、次に自分たちが学びたいことを考えることができるようになる。

このような学び合いの場面を意図的に設定することで、子どもたちの思考や判断が促され、次の「やってみたい」へとつながっている。その「やってみたい」という思いが、次の問いを生み、「解決したい」と追求していく子どもたちの姿を引き出している。（文責 藤田 壮志）